

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年2月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670201088
法人名	社会医療法人 卓翔会
事業所名	グループホーム遊雅の郷
所在地	鹿児島県薩摩川内市入来町浦之名786番地 (電話) 0996-21-4500
自己評価作成日	令和6年1月23日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれたのどかな景観が身近にあります。「人間としての尊厳を守り、やすらぎのある生活をしていただく」という基本的理念を掲げ、支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは薩摩川内市入来町の緑豊かで静かな田園地帯に位置し、すぐ近くに消防署や交番、職業訓練校、地域コミュニティセンター、軽費老人ホーム等がある。車で約10分のところに法人の母体医療機関や関連施設があり、母体医療機関では研修会や院内勉強会を実施したり、利用者のかかりつけ医として緊急時や体調不良時にも即座に対応できる体制が整備されている。

「住み慣れた地域の中で人間としての尊厳を守り、自分らしく笑顔いっぱいやすらぎのある生活をしていただくこと」を理念として掲げ、職員は声かけを意識しながら利用者に寄り添い、理念に沿った支援に努めている。ホームでは安全管理、感染・衛生、栄養、防災、虐待防止に関する委員会を設置し、職員間での人間関係を大切に笑顔で日々を過ごせる支援に取り組んでいる。

決められた時間内に10分程度、2名まで面会可能となっている。ホームの周辺の散歩、花見、家族と職員が協力しての病院受診や墓参り、ドライブ等、本人の希望に合わせて個別的な外出支援に取り組んでいるが、今後は感染状況等を確認しながら、外出の機会を増やしていける方向で模索している。利用者が楽しみにしている食事は、利用者の身体状況に合わせて食事形態を工夫し、個々に合わせた食事の提供ができるように支援している。季節の行事食、おやつ作り、リクエストメニュー等も取り入れて、職員も一緒に食事を楽しんでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本的な理念はリビングやスタッフルームに掲示し、常に共有できるようにしている。	理念は職員の目に付きやすいように食堂やスタッフルームに掲示しており、職員は声かけを意識しながら利用者に寄り添い、理念に沿った支援に努めている。法人の人事評価シートに基づき本人・管理者・法人本部による評価を毎年実施して面談を行い、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ感染下で地域行事やボランティアへの参加企画などが中止。感染流行がおさま次第、再開予定。	コロナ禍以降、地域との交流は自粛しているが、近隣の散歩時に地域の方と会話したり、地域の夏祭りには駐車場を提供して遠くから見学するなど、可能な限り地域との触れ合いに努めている。管理者はホームの見学や入居等についての相談を受けるなど、地域密着型としての役割を果たせるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	隣接する居宅事業所や小規模多機能からの相談を受けている。運営推進会議の場で近況報告をしており、症状の説明や支援内容を説明し理解していただけるよう努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、入居者様・ご家族・地域の方々・施設職員とで開催し、施設で予定している行事や近況報告を行い、意見交換やアドバイスをもらっている。	会議は、利用者、家族、消防署、行政職員、事務長等の出席により、隣接のコミュニティセンターで2か月毎に開催している。自治会長と全家族への声かけを行い、家族には会議の年間予定表を配布している。会議では入居者情報、事業報告、ヒヤリハット等について意見交換し、業務改善に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で意見や助言を頂いたり、市からの研修案内や災害予防などのメールや定期的な連絡会への参加に努めている。	市の本所・支所職員とは介護保険関係書類の提出や運営推進会議への出席等、メールを中心に日頃から連携を密に図り、ホームの運営や現状を伝達して協力関係を築いている。生活保護や社協の日常生活自立支援事業の利用者に関する連携にも努め、情報や意見の交換を行って、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内研修で身体拘束について勉強会を行い職員の理解を深め、身体拘束しないケアの実践に努めている。	「身体拘束等適正化のための指針」に基づいて適正化のための委員会を3か月毎に開催し、虐待防止や人権擁護を含めた勉強会を実施している。日頃からスピーチロックや業務に取り組む姿勢など、不適切な場面では管理者がその場で注意して改善に努め、職員の認識を深めている。日中は玄関の施錠はせずに、見守りや散歩に同行する等の工夫で自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修で虐待の防止について勉強会を行うと共に、普段から入居者様からの苦情や不満が耳に入った時は共有し、虐待につながるような防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護をテーマにした勉強会の実施。また権利擁護センターに相談したりして、成年後見制度利用につなげたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や重要事項説明は入居時に確認をしながら説明を行っている。入居後も家族からの質問等に応え理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状態変化のある入居者家族などへ電話にて近況報告や面会時等で職員から積極的に話しかけ、思いや要望等を把握するように取り組んでいる。	利用者の意見や要望等は生活歴や家族からの情報、日常の表情や仕草、入居前の面談等により把握し、家族からは面会、電話、2か月毎のホーム便りや写真の送付等から把握に努めている。コロナ禍以降、面会や外出に関する意見等が多くみられ、職員も利用者や家族の思いを十分に受け止めて支援に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員からの意見や提案を聞き、ケアや業務に反映している。	管理者は日頃から職員に対して笑顔で話すように心掛け、昼食時間はユニット毎に交代で職員と共に時間を共有して話せるように心がけている。希望休や有給休暇の取得、職員間での勤務交代も可能であり、資格取得に対しては法人のバックアップ体制が確立されて、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの声を拾い状況把握し、働きやすい職場づくりに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>自己評価を取り入れ、自分の意識や知識をチェック・見直す機会をもつことで向上心を持つよう工夫がなされている。</p> <p>職員が自主的に参加したい研修は、法人にとって必要であれば費用等も考慮し受けやすい体制を整えている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣にある施設職員の訪問や管理者が行き来をし交流し合っている。</p> <p>連携会議で同業者と交流したり、その都度電話連絡等で相談している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に可能な部分面談を行い、自宅や病院、施設にて御本人から話しを伺っている。また、御家族への面談も実施。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談があった時に、現状で困っていることや不安に思うことはないか必ずお聞きしている。また、どのような生活を送りたいかなどの要望も伺っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時などすぐに入居できない場合、その方の状況に合わせた他事業所の紹介や問合せするなどの対応をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の主体性を尊重したケアを心掛けている。職員は見守りをしたり、一緒に片付けや掃除、洗濯物たたみ等をしたりと暮らしを共にすることができている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の体調に変化があった際は、電話連絡を行なっている。 本人が家族に電話をしたい時はその都度連絡している。 購入品があればお願いしている。 2ヵ月に1度、日頃の様子として行事風景を写真で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人からの面会や電話など取次ぎ支援をしている。	面会は14時から16時の間に10分間、2人まで玄関内外に座って実施している。電話の取り次ぎ、2か月毎に来訪する美容室の利用や、馴染みの美容室への外出、家族との受診、墓参り等、これまでの繋がりを維持できるように支援している。携帯電話で自由に会話を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い入居者様同士の関係が良好に保てるよう考慮し、食事の席を検討したり、楽しく暮らせるよに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が他施設へ移動の際は、関係者に状況、習慣、これまでの状態やケア内容を伝え、本人の不安が少しでも軽減できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、会話や表情・しぐさ等から思いや希望を把握し、できるだけ思いに沿えるケアに努めている。	利用者の多くは意見・要望等を表現できるが、不得意な利用者は、日頃の関わりの中で表情・仕草等から汲み取るように努め、これまでの生活歴も把握して、これまでできていたことが入居後も継続してできるような支援に取り組んでいる。職員は把握した内容を申し送りや職員会議等を通して共有し、利用者の視点から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネジャーから入居前情報を提供してもらったり、日頃の会話の中からも聞き取ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の言動や食事摂取状況、排泄の状況等を記録し、職員同士で情報を共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や訪看、主治医から意見を聞いたり、本人や家族の意向もケアプランに反映するようにしている。	利用者及び家族の思いや意見を聞き、職員や往診時の主治医の意見・助言、訪問看護の意見等も参考に、6か月毎のモニタリングを実施し、利用者の身体状況に合わせて臨機応変に見直しを行ないながら、本人の希望を大切に介護計画を作成している。計画は、本人が穏やかに落ち着いて過ごせることを第一に考えているが、入院を契機に退所となる場合が多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録を記入し、出勤時に各自が確認するようにしている。また、特別な変化がある時は、申し送りで情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の状態や家族関係等を把握し、必要に応じて他機関に相談したりして支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナの影響により地域資源を活用する機会が減少。買い物や図書館利用など制限解除後に行って行きたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望される病院へ通院し適切な医療が受けられるように支援している。</p>	<p>利用者全員が母体医療機関をかかりつけ医としており、月2回の往診・週1回の訪問看護・希望者は歯科診療を受け、また緊急時や体調不良時にはすぐに対応してもらえるなど、母体医療機関との密な連携を図っている。他科受診は基本的には家族同伴としているが、精神科受診は家族で対応している。受診結果は介護記録や申し送りノートに記載して職員間で情報共有し、家族とは電話で報告し、確認している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日々の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ日々の様子や気づきを申し送り、必要時受診するなど体調管理に努めている。また週1の訪問看護や往診時の主治医からの助言をもらうなど連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の病状説明に管理者も同席。治療方針や退院時期について確認をしている。また、普段の様子等も病院側に情報提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、急変時の対応については入居時に書面で確認をしている。また、実際に重度化したり終末期になった場合は本人や家族の意向を確認し、それに沿った支援をしている。	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」「看取りの指針」について説明し、延命治療や急変時の搬送についての意思を確認している。現在は看取りを実施していないため職員への研修等は実施していないが、ホームにおいて対応可能な体制を築き、家族の思いを汲み取って支援に繋げられるように取り組んでいる。終末期となった場合には、利用者や家族の変化する思いを理解して寄り添って対応するように努めているが、医療機関で最期を迎える利用者も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、緊急時に対応できるようマニュアルを整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練を行い、その都度改善点等を話し合い、安全に避難できるように努めている。</p>	<p>年2回のうち1回は消防署の協力を得て、夜間想定を含めた火災に対する避難訓練を実施している。BCP計画は作成途中であり、台風・風水害に対応した「非常災害時対応マニュアル」を作成しており、自動通報装置により消防署・職員・法人内他施設等に連絡がなされ、関係機関との協力体制も構築されている。備蓄はユニット毎に水・米・レトルト食品・缶詰等を準備し、懐中電灯、ラジオ、カセットコンロ等も用意して防災対策に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの自尊心に配慮した支援を心がけている。声掛けにも注意している。	入居時に個人情報の保護に関して説明しており、ボランティアの受け入れに関しては、書面で守秘義務の徹底を図りたいと考えている。倫理及び法令遵守・虐待に繋がる不適切なケア等についての研修等を実施し、排泄・入浴介助、居室への入室時のノック、さん付けでの呼称等、不適切なケアにならないように配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で本人の意思を確認している。また、意思表示が出来ない方であっても表情を観察しながら、本人の希望を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があれば出来る限り対応し、どのようにすれば、その人らしい暮らし方ができるか、本人のペースで過ごせるか工夫や考慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個性を大切に、本人の好む服装や身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせて食事形態を工夫している。季節を感じるような食事の提供に努めている。	利用者の身体状況に合わせて、刻み・ミキサー・栄養補助食品の活用など、個々に合わせた食事の提供ができるように支援している。ホームには栄養委員会が設置され、法人の管理栄養士が立てた献立を参考に、季節の行事食、おやつ作り、リクエストメニュー等も取り入れている。食前には口腔体操を行い、BGMを流して職員も一緒に食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分摂取量を毎食時確認している。体重の増減、体調など考慮した上で全体を通じた支援が出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて、毎食後口腔ケアの声掛けまたは介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立している方もいたり、表情や動作で排泄のサインを出している方もいるため極力トイレでの排泄が出来るように対応している。また、さりげなく声掛けをし、トイレでの排泄を促している。夜間もトイレまでいけない方にはポータブルトイレを置くなど対応している。	食事や水分摂取量の把握と共に排泄チェック表を活用して、利用者の日々の様子から排泄のタイミングを察知し、近寄って声かけするなど、自尊心や羞恥心にも配慮した支援を行っている。日中は可能な限りトイレでの排泄を基本とし、利用者毎にリハビリパンツと排泄用品の組み合わせを工夫し、希望者は夜間のトイレでの排泄支援を行って、自立へ向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排泄状況を管理している。水分摂取や食物繊維の多い食べ物、乳製品などの提供と運動への働きかけを行っている。また、医師と看護師に相談し下剤の調整も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	心身の状態を確認してから安心して入浴ができるよう支援している。また入浴日でも入りたくないと言われる時は、時間帯や日にちをずらし、快適な入浴につなげている。	入浴は週2回午前中、順番制で支援しているが、湯船に浸かれない利用者はシャワー浴で、本人の希望や清潔保持必要時にはいつでも入浴できるように柔軟に対応している。同性介助や入浴介助が必要な利用者もあり、入浴をためらう利用者には日にちや時間をずらしたり、工夫して無理強いすることなく入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別チェアやソファでゆったりとテレビを視聴したり他者や職員と会話したり、本人に聞きながら居室で横になったりストレスにならないよう安心して過ごせるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個別管理し、内服薬の変更があるときは、その都度差し替えしいつでも確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、洗濯物たたみ、テーブル拭きの作業をしたり、塗り絵や歌等、好きな活動をして気分転換ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候や気温、安全性に注意しながら、外を散歩したりドライブに行っている。 ※コロナの影響により、家族との外出は控えていただいている。</p>	<p>日常的な外出としては、ホームの周辺を散歩して近隣の方々と触れ合ったり、花見、家族と職員が協力しての病院受診や墓参り、ドライブ等、本人の希望に合わせて個別的な支援に取り組んでいる。ホームの庭には木製のテーブルと長椅子が配置されて、お茶飲みや外気浴等を楽しんでいる。今後は感染状況等を確認しながら、外出の機会を増やしていけるよう努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には施設で管理している。希望に合わせて、その中から支出している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>職員が電話をかけたり、ご家族からかかってきた際にご本人と代わりお話ししていただく機会がある。 携帯電話を持っている方もおり、自由に連絡できる環境である。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季に合わせて装飾物などを変え季節感を出すように心掛けたり、清潔を保ち心地よく過ごせるよう努めている。</p>	<p>木製の玄関の扉には心地良い音色の鈴が取り付けられ、居室入口の扉は障子をイメージさせる造りで、和の雰囲気を感じられる。広い食堂は明るく、植物や季節の飾り・カレンダー・温度計等が掛けられ、職員が持参した生花が活けてあり、居心地良く過ごせるように工夫されている。対面キッチンからは調理の匂いや様子が感じられて、家庭的な雰囲気で本人らしく過ごせるように配慮されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	廊下にベンチがあったり、リビング（食堂）でも気の合う者同士話しができるよう席を工夫したり環境作りに意識している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	自宅で使用していた馴染の物を持参していただき、心地よく過ごせるよう工夫している。	居室はフローリングが殆どであるが、各ユニットに和室が1部屋ずつある。入口には利用者名が貼ってあり、エアコン、ベッド、たんす、洗面台が備えられている。利用者は使い慣れた寝具・テレビ・イス・置時計・写真・遺影・自分の作品等、馴染みの物を持ち込み、職員が、掃除や身辺整理等を行って居心地よく落ち着いて過ごせるように支援している。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	各居室に表札を設け、居室が分かるよう工夫している。また、トイレの扉にトイレマークの看板を貼るなどし、迷わずトイレへ向かえるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない